特定非営利活動法人
湘南 NPO サポートセンター
令和６年度　事業報告書

2024 年４月～2025 年３月

(令和 ６年 ４ 月 １ 日より令和 ７年 ３ 月 31 日まで)

～一人ひとりが自分らしく暮らせるまちに～

わたしたちは、組織や制度の壁を越え、人々がつながり共に行動する市民社会をつくるため、NPO・自治体・企業・大学等と連携し社会課題・地域課題の解決に向けて活動しています。

湘南NPO
サポートセンター

［事業運営に関する事項］

特定非営利活動に係る事業

（１）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

・内　　容　　市民活動団体や地域活動団体の相談や援助の活動及びコーディネート、情報交換と交流の場づくり、内部研修他

・日　　時　　随時

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　17 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体等

・支　出　額　　753,283 円

イ　ひらつか地域づくり市民大学の開催、人材育成・コーディネート（平塚市との協働事業）

・内　　容　　第 12 回ひらつか地域づくり市民大学の開催（地域づくりの人材育成）

・日　　時　　12 月 21 日（土）

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　10 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、平塚市及び近隣市町村民

・支　出　額　　114,485 円

ウ　ひらつか市民活動センター運営事業（平塚市との協働運営）

・内　　容　　ひらつか市民活動センター運営事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　12 人　　※必要に応じて会員が支援

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、及び関係各機関等

・支　出　額　　18,734,689 円

エ　農福連携マッチング等支援事業（神奈川県との協働事業）

・内　　容　　神奈川県と共に障がい者の就労機会の確保・工賃向上、農業の担い手の確保という課題を解決するため、農福連携の推進が必要であるという課題を共有し、協働で事業を実施するに当たり、農福連携の推進を通じて、誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現を図る。

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　４人

・対　象　者　　農業関係者、障がい者支援団体、及び農福連携に関心のある市民

・支　出　額　　1,272,750 円

オ　かながわ水産業福祉連携推進事業

・内　　容　障がい者、高齢者、生活困窮者といった幅広い福祉の支援を要する者を水産業（水産加工、漁業）の担い手の一端に位置づけ、福祉部門と連携しながら水産業の担い手を増やし、就労・雇用の確保につなげるとともに、障がい者、高齢者、生活困窮者が生涯を通じて地域で活躍できる仕組みづくりを行う。

・日　　時　通年

・場　　所　神奈川県西部地区

・従事者人員　6 人

・対　象　者　会員、関係者、他

・支　出　額　7,569,056 円

カ　地域づくり活動促進事業（共創型地域運営組織化支援事業）

・内　　容　「仕組みづくりノート」で提案した共創地域・まちづくりの考え方をもとに、関係者及び一般市民を対象にシビックプライドの醸成を目的に、シンポジウム・セミナーの開催やまち歩きを行う。

・日　　時　通年

・場　　所　平塚市内

・従事者人員　11 人

・対　象　者　市民、市民活動団体、平塚市及び近隣市町村民

・支　出　額　1,232,138 円

（２）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業

ア　メディア事業

・内　　容　市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの相談・制作。WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作。

・日　　時　通年

・場　　所　平塚市内及び近隣市町村

・従事者人員　4 人

・対　象　者　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者等

・支　出　額　1,421,231 円

イ　ＩＴの利活用についての相談・助言

・内　　容　スマホ・タブレットさろんの運営

・日　　時　毎週木曜日 10:00~12:00

・場　　所　ひらつか市民活動センター

・従事者人員　5 人

・対　象　者　市民、市民活動団体、地域活動団体

・支　出　額　67,570 円

ウ　ローカルメディアを活用した平塚地域及びその周辺の魅力ＵＰ発信事業

・内　　容　　:ひらつか地域魅力ネットの運営
　　主に平塚市域の魅力的な人・場所・コトを取材し Web サイトで紹介する
・日　　時　　通年
・場　　所　　ひらつか市民活動センター
・従事者人員　　３人
・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者
・支　出　額　　０円

（３）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

実施しなかった。

尚、事業の詳細は【別紙】に記載する。

［令和６（2024）年度事業報告］

事業総括

理事長　坂田　美保子

法人設立から 12 年（登記 2012 年 3 月)、これまでの活動を振り返ると共に次の中長期計画を考える上で、一度立ち止まり向かう方向性を皆で共有することが重要と考え、団体のビジョン・ミッションを改めて見つめ直す機会を持ちました。定款を紐解き意見交換を重ねた結果「ビジョン（目標・目指す社会)」は、自立した市民社会と充実した地域活動の実現であり、「ミッション（目的・存在意義)」は、市民活動を行う人や団体にとって頼れる存在であること、「バリュー（行動指針)」は共に学び共に考え実行する仲間であることを改めて定義づけました。

さて、2024 年 1 月 1 日午後 4 時 10 分頃、石川県能登半島で最大震度 7 の揺れを観測する大地震が発生しました。建物の倒壊や津波の被害などで死者は 470 人以上(災害関連死含む)に上り、地盤の隆起も確認されました。一方、平塚市では台風 10 号に伴う大雨による被害が発生しました。平塚市によると床上浸水 69 棟、床下浸水 59 棟、道路冠水 150 件、土砂流出 59 件、罹災証明書の申請 181 件、発行 181 件でした。そのような中、ひらつか市民活動センター登録 326 団体に向けたアンケートでは、災害前・中・後に連携・協力できると回答した団体が 68 団体ありました（昨年 40 団体)。4 回目を数える防災座談会でも横のつながりが重要という声が上がり、災害に対する関心の高まりを再確認しました。

また、生活困窮者支援・高齢者支援・就労支援・子ども支援等に取り組む各支援機関や NPO 等が、複合的な課題に対する支援やサポートが難しいという現状を鑑み、ひらつか市民活動センターと平塚市社会福祉協議会との共催で支援者間交流会を開催しました（2 回実施)。参加者からはこれまでこのような機会がなかった、情報共有・連携の仕組みがあれば解決につながる可能性が高まる、との声が多くありました。防災・福祉に関わらず多機関連携を進めていくことは中間支援組織としてのミッションでもあると改めて認識した 1 年でした。

5 年目となる「農福連携マッチング等支援事業」や 2 年目を迎えた「かながわ水産業福祉連携推進事業」ではマッチングの事例を着実に生み出すことができました。農福連携・水福連携では農家・水産業者・福祉関係者共に、お互いがなくてはならない存在になりつつあり、連携するメリットを実感していただいています。

地域づくり支援活動では、昨年発行した「地域活動の仕組みづくり note」を元に、12 回目となるひらつか地域づくり市民大学、次世代まちづくりセミナー、HIRATSUKA まち・ひと・魅力づくりフォーラム、地域自治会向け研修を実施、参加者同士がつながり、地域づくりを我が事として考えるきっかけをつくりました。

運営が課題となっていた「地域魅力ネット」では、東海大 3 名のインターンシップ生や梶田研究室 8 名による記事を 7 本掲載することができました。ＰＲサポート、スマホタブレットさろんは今年度も安定した活動ができました。

法人の安定運営にご協力いただいた理事・監事・アドバイザー各位、スタッフ各位、関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

（1）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

・相談事業　市民活動団体の相談対応

団体の運営、NPO 法人の設立、申請書・報告書の書き方、事業計画の立て方、事業の進め方、助成金の申請など、適宜対応した。※ひらつか市民活動センターの相談件数参照

・かながわボランタリー基金 21 団体成長支援事業「パブリックリレーションズ・サポート・プログラム」アドバイザー協力

・神奈川県との協働「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング in 平塚・大磯・二宮」開催

・「かながわ NPO 伴走応援プログラム」サポーター（県内中間支援組織の連携）として参画

イ　平塚市との協働事業：ひらつか地域づくり市民大学の開催、地域人材の育成、コーディネート

・第 12 回ひらつか地域づくり市民大学の開催

日時：12 月 21 日（土）「人生 100 年時代の地域づくりを考える～多世代の絆づくり～」

開場：崇善公民館 1 階ホール

参加者者：34 名（会場：21 名、YouTube：13 名）

第 1 部　基調講演「自分らしく生きる～自己実現の居場所づくり」

講師：後藤 純 氏（東海大学建築都市学部准教授）

第 2 部　パネルディスカッション「支え合う地域づくり　～今、私たちに求められること～」

パネリスト：横内連合自治会会長：小宮 保 氏

花水地区町内福祉村会長：宮田 憲二 氏

市民活動団体「ひばり野のなかま達」：高橋 亜衣子 氏

平塚市社会福祉協議会：山嵜 菜央 氏

コメンテーター　　後藤 純 氏（東海大学建築都市学部准教授）

コーディネーター　坂田 美保子（湘南 NPO サポートセンター理事長）

・年齢構成は、10 代 1 名、40 代 1 名、50～60 代 7 名、70 代以上 7 名。

基調講演では、介護予防について、制度やサービスだけでなく、居場所づくりが重要なことを実感できた。世代をつなぐ仕組みづくりの大切さを感じた。パネルディスカッションでは、住んでいる人の声を聴くこと、できることをコツコツとやっていくことが継続の原点だと感じた。感想としては、安心して暮らしていける地域にしていくためには医療や介護に加え、薬・健康相談等の幅広い分野の連携も大切だと実感できた等の声があがり、8 割以上の方が学びが得られたと回答された。

ウ　ひらつか市民活動センター運営事業

1　実施業務

ひらつか市民活動センターの設置及び管理等に関する条例及び施行規則に基づき、ひらつか市民活動センター（以下、「センター」という。）の管理等に関する業務全般を行った。

主な実施業務は次のとおり。

（1）　市民活動推進のための施設及び設備を利用に供すること。

ア　センターを利用するものの利用承認に関する業務

【新規登録件数】

市民活動団体	16 団体
一般団体	12 団体

イ　センターの会議室、特定設備及びレターケース等の利用承認に関する業務

【会議室等利用状況】

項目	区分	2024（R6）年度				2023（R5）年度				前年差	増減率
		午前	午後	夜間	全体	午前	午後	夜間	全体		
団体数	会議室	885	872	588	2,345	833	866	650	2,349	▲ 4	99.8%
	MTG	699	825	269	1,793	658	857	271	1,786	7	100.4%
	情報	58	45	10	113	47	48	18	113		100.0%
	作業	146	89	12	247	134	109	15	258	▲ 11	95.7%
	合計	1,788	1,831	879	4,498	1,672	1,880	954	4,506	▲ 8	99.8%
利用人数	会議室	10,313	10,677	5,295	26,285	9,065	9,617	5,284	23,966	2,319	109.7%
	MTG	3,350	3,413	706	7,469	2,881	3,318	833	7,032	437	106.2%
	情報	71	57	10	138	58	57	21	136	2	101.5%
	作業	360	150	19	529	337	197	18	552	▲ 23	95.9%
	キッズ	47	26	2	75	26	16	1	43	32	174.4%
	合計	14,141	14,323	6,032	34,496	12,367	13,205	6,157	31,729	2,767	108.7%

【会議室の稼働率】

	午前	午後	夜間	全体
2024年度	85.0%	84.5%	56.6%	75.4%
2023年度	79.4%	83.2%	62.3%	75.0%

（２）市民活動に関する情報を収集し、及び提供すること。

ア　Web サイト・メールマガジン・ＳＮＳ等による情報発信

【Web サイト】①トピックス（センターの開館及び会議室の利用状況に関する情報、
市民向け講座等の情報、平塚市情報等の掲載、
②イベント情報（市民活動団体イベント情報）　③助成金情報
④ボランティア情報 ⑤イベント開催レポート（センター主催事業の報告等）
⑥ひらつかの風（適宜）

・活動センターWeb サイト 2025 年 3 月末までアクセス状況

【計測期間】R6 年度 2024/4/1～2025/3/31（365 日間）

【比較期間】前年同時期 2023/4/1～2024/3/31（366 日間）

【ページビュー数】（期間中に閲覧されたページの数）

今期：125,730 回 1日あたり：344,46 ページ（GA4 計測）

前期：129,783 回 1日あたり：355,56 ページ（UA・GA4 計測）

【年間ユーザー数】（1 年間にサイトに訪れた人数）

今期：44,035人 1日あたり：120,64人（GA4 計測）

前期：43,533人 1日あたり：119,268人（UA・GA4 計測）

【メールマガジン】毎月 10 日発行（4 月～2025 年 3 月まで 12 回発行）（244 号/3 月発行）

登録数：399 名

【ＳＮＳ等による】別紙「ソーシャルメディア利用申請書」のとおり。

Facebook：フォロワー368 人、「いいね！」330 件

（参考：令和 5 年 9 月末 331 人、「いいね！」308 件）

YouTube：登録者数 116 人（参考：令和 5 年 9 月末 64 人）

イ　情報紙の発行（年 6 回／隔月発行）

【ひらつかの風（情報紙）】

第 38 号　5 月 15 日発行　　第 39 号 7 月 15 日発行　　第 40 号 9 月 15 日発行

第 41 号　11 月 15 日発行　　第 42 号 1 月 15 日発行　　第 43 号 3 月 15 日発行

（３）市民活動に関する調査及び研究を行うこと。

ア　センターを利用するものへのアンケート調査（結果の分析を含む）（年 1 回）

11 月 15 日から 12 月 20 日の期間で「市民活動団体の現状に関する」アンケートを実施した。結果、164 団体（前年度 132 団体）から回答が寄せられた。内容を集計・分析した成果物は各市民活動団体に冊子として配布するとともに、個人情報を配慮した上で Web 上でも公開した。

（４）市民活動に関する相談を行うこと。

ア　市民等からの次の相談を行い、相談記録を作成すること。

【相談件数】

相談件数	240 件
（内専門相談）	119 件/240 件

【相談内訳】

一般相談			
項目	2024年度	2023年度	前年差
ボランティア関連	15	6	4
市民活動団体を知りたい	16	16	
センター登録関係	11	14	2
団体をつくりたい	4	3	1
NPO法人を設立したい	1	6	▲ 2
助成金に関する相談	2		1
組織運営に関する相談(運営・会計・広報・他)	2	6	▲ 4
協働に関する相談			
その他	16	26	▲ 2
団体登録に関する相談	47	17	9
ﾌｫﾛｰ	7	3	3
一般相談合計	**121**	**97**	**12**

【専門相談】

専門相談			
項目	2024年度	2023年度	前年差
資金調達	11	9	0
組織運営	19	4	14
情報・広報	8	0	4
法人設立	10	9	▲1
会計・税務	10	23	▲5
連携・協働	9	3	3
その他	36	31	1
ﾌｫﾛｰ	16	14	6
専門相談合計	**119**	**93**	**22**
一般相談+専門相談	**240**	**190**	**34**

（５）市民活動に関する学習の機会及び市民活動を行うものの相互交流の機会を提供すること。

ア　市民等向け講座の実施（年７回）

講座名・講師等	実施日	参加者数
ファンドレイジング講座 講師：徳永洋子氏／ファンドレイジング・ラボ代表／日本ファンドレイジング協会理事	7月20日（土） 14:00~16:30	11団体・11人
協働をテーマにした団体応援講座 団体の活動を見つめ直し未来を描く～協働から生まれるまちづくり～全３回 講師：第１回　米元 洋次 氏 合同会社 Active Learners 第２回　椎野 修平 氏 日本 NPO センター特別研究員 第３回　山之内 凛太郎 氏 合同会社 Active Learners	・第１回 9月21日（土） 14:00~16:00 ・第２回 10月5日(土) 14:00～16:00 ・第３回 10月27日(日) 14:00～16:00	・第１回 6団体・13人　計13人 ・第２回 7団体・15人　個人・1人 計16人 第３回 5団体・7 人 個人・４人 計11人
広報力 UP 講座　全２回 講師：北原まどか氏 認定ＮＰＯ法人森ノオト理事長	・第１回 9月28日（土） 13:30～15:30 ・第２回 11月9日（土） 13:30～15:30	6 団体・10 人、平塚市・1人　計11人 7団体・9人、インターン・2人　計11人

NPO 法人運営・設立講座 講師：坂田美保子氏　NPO 法人湘南 NPO サポートセンター理事長	3 月 22 日(土) 10:00～12:00	1 団体・4 人、個人・3 人 計 7 人

イ　センターを利用するもの同士の交流会の実施（年 1 回）

【交流会　3 回実施】

講座名・講師等	実施日	参加者数
第 1 回支援者間交流会（社協協力） 講師：内田英子氏 平塚市社会福祉協議会	6 月 20 日（木） 14:00~16:30	8 団体・9 人、他支援機関・11 団体・13 人　合計・22 人
防災座談会 事例紹介：芦川好宏氏 平塚市社会福祉協議会	9 月 29 日（日） 13:30～16:00	7 団体・20 人、他団体・2 人 個人・1 人、災害対策課・1 人 学生・3 人　　合計・27 人
第 2 回支援者間交流会（社協共催） 講師：又村あおい氏 一社）全国手をつなぐ育成会連合会 (平塚市社会福祉協議会と共催)	2 月 26 日（水） 14:00~16:00	10 団体・21 人、他支援機関・9 団体・19 人、平塚市・1 人、社協・4 人、　　合計・45 人

ウ　市民活動の普及のためのイベントの実施（年 1 回）

【ひらつか市民活動センターまつり実行委員会】

・実行委員会　全 6 回（6/14、7/12、8/9、9/13、10/11、12/3）　14 団体 14 人

委員長,副委員長選出、日程決め、実行委員会企画打合せ、レイアウト等

・　同　　缶バッジ製作その他（9/21,9/27）3 団体 6 人

・参加団体全体会（11/1）46 団体参加

・　同　反省会(12/13)

・事務局会議　計 6 回（4/8、6/5、7/10、8/2、9/5、10/4）

【ひらつか市民活動センターまつりの実施】

実施日	参加者数	実施内容
11 月 24 日（日） 10:00～15:00	延べ・3771 人 (内訳) 参加団体延べ・512 人 一般来場者延べ・3256 人	・ポスター大賞／川柳大賞表彰式 ・市内幼稚園、保育園児によるセンターマスコット「たすけくんとあいちゃん」のぬり絵の展示 ・崇善小学校マーチングバンドによる演奏（オープニング）

		・団体出展(ブース 48 団体 パフォーマンス 8 団体(ブースとの重複 2 団体) 計 54 団体

エ　特定非営利活動法人の会計・税務相談会の実施（年１回）

実施日：令和７（2025）年２月５日（水）18：00～20：00

税理士：小原税理士、徳永税理士

参加数：３団体６人

（６）市民活動に係る人材の育成を行うこと。

ア　若者のボランティア参加を促進する事業の実施（年１回）

【こどもわくわくフェスタ 2024】＊崇善公民館との共催事業

実施日	参加者数	実施内容
7 月 27 日（土） 10：00～14：30	来場者数・1,886 人 出展団体・18 団体 （内ゲスト・2 団体） 江陽中学校科学部 UD DANCE SCHOOL	4 月 26 日（金）18：00～19：30 参加団体説明会・10 団体参加 7 月 26 日（金）15：00～17：00 前日準備 7 月 27 日（土）8：45～15：00 施設全体を活用して開催

イ　市民の市民活動参加を促進する事業の実施（年１回）

実施日	参加者数	実施内容
令和 7(2025)年 3 月 22 日（土）10:00～12:00	1 団体・4 人、個人・3 人、 合計・7 人	・NPO 法人の設立について ・団体の組織運営について

（７）その他市民活動の推進に関すること。

ア　市との情報共有（センター運営状況の報告等）（毎月１回）

・スタッフ内部ミーティングの実施　計 12 回

4 月 5 日(金)、5 月 8 日(水)、6 月 5 日(水)、7 月 2 日(火)、8 月 2 日(金)、9 月 5 日(木)

10 月 4 日(金)、11 月 6 日(水)、12 月 3 日(火)、1 月 7 日(火)、2 月 5 日(水)、3 月 7 日(金)

イ　市との会議（センター運営に関する法人理事会との打合せ）計４回

5 月 24 日(金)、8 月 2 日(金)、11 月 5 日(金)、3 月 24 日(月)

ウ　センターの清潔さの維持のための最低限の清掃：随時実施

エ　その他、市が参加を必要とした関係機関等のイベントなどへの参加（１～３回を想定）

・第 48 回平塚市緑化まつり出展

実施日	参加者数	実施内容
4 月 27 日(土) 10:00～16:00 第 48 回平塚市緑化まつり 総合公園はらっぱ	延べ 408 人　　内訳： ・たすけ愛文庫・201 人 *寄附と交換冊数×3 ・釣りゲーム：207 人 ＊参加人数 69 人×3	・市民活動センター出張ブース (市民活動/ボランティアに関する相談) ・たすけ愛文庫への寄附額 7,700 円 ・釣りゲーム(崇善公民館より借用)

・TOKAI グローカルフェスタ出展

実施日	参加者数	実施内容
10 月 12 日(土) 10:00～15:00 2024 TOKAI グローカルフェスタ 東海大学湘南校舎	延べ・555 人　　内訳： ・たすけ愛文庫・255 人 *寄附と交換冊数×3 ・紙コップ工作・30 人 *参加人数 100 人×3	・市民活動センター出張ブース (市民活動/ボランティアに関する相談) ・たすけ愛文庫への寄附額 8,550 円 ・紙コップ工作(ハロウィンおばけ)

2　業務内容を履行するための要件に対する対応

（1）常時 2 名をセンターに配置し、業務内容に応じ増員をした。

・湘南ひらつか七夕まつり開催に伴い、令和 6 年 7 月 3 日(水)午前 9 時から 7 月 8 日(月) 17 時までの期間を休館とした。

（2）適切にひらつか市民活動センターのホームページを管理・運営した。

・市民活動団体情報ファイルを団体自身が編集できるよう継続してサポートを行った。

（3）センターは、平塚市立崇善公民館との複合施設であるため、同館との連携・調整を行った。

・相互利用実績

崇善公民館→活動センター		通期	活動センター→崇善公民館		通期
団体数	2024 年度	40	団体数	2024 年度	182
	2023 年度	45		2023 年度	160
利用人数	2024 年度	425	利用人数	2024 年度	1,408
	2023 年度	516		2023 年度	1,234

（4）必要に応じて関係機関や専門家等との連携・調整

【関係機関や専門家との連携実績】

関係機関名・専門家	実施日	連携・調整内容
①　神奈川県ボランタリー基金 21 団体成長支援事業（2 年目） 主催:認定 NPO 法人森ノオト	・8 月 8 日(木) 13:00~16:00 （参加団体研修①）	広報力を高めたい団体（エントリー10 団体）の伴走支援プログラム ・横浜市民協働センター

「パブリックリレーションズ・サポートプログラム」 ＊アドバイザーとして参画 *契約主体：湘南 NPO サポートセンター	・9 月 11 日（水） 13:00～16:00 （参加団体研修②） ・2 月 28 日（金） 14:00～17:00 （成果報告会）	・かわさき市民活動センター ・ひらつか市民活動センター ・（一社）ソーシャルコーディネートかながわ
②神奈川県「かながわ NPO 伴走応援プログラム」（受託団体：（一社）ソーシャルコーディネートかながわ ＊伴走支援団体として県内 14 の中間支援組織が参画 *契約主体：湘南 NPO サポートセンター	①7 月 4 日（木） ②8 月 1 日（木） ③8 月 23 日（金） ④9 月 12 日（火） ⑤9 月 17 日（火） ⑥10 月 9 日（水） ⑦10 月 11 日（金） ⑧10 月 14 日（月） ⑨10 月 30 日（水） ⑩11 月 11 日（月） ⑪11 月 22 日（金） ⑫12 月 9 日（月） ⑬1 月 20 日（月） ⑭1 月 27 日（月） ⑮2 月 21 日（金）	*支援団体：認定特定非営利活動法人ヴォース・ニッポン（小田原市） ① 第 1 回サポーター会議 ② 第 2 回サポーター会議 ③ 全体会 ④ 第 3 回サポーター会議 ⑤ 支援団体代表との打合せ ⑥ 支援団体理事・会員との打合せ ⑦ 第 4 回サポーター会議 ⑧ 支援団体代表との打合せ ⑨ 支援団体代表との打合せ ⑩ 第 5 回サポーター会議 ⑪ 支援団体代表との打合せ ⑫ 第 6 回サポーター会議 ⑬ 第 7 回サポーター会議 ⑭ 支援団体代表との打合せ ⑮ プログラム報告会
③神奈川県「NPO・企業・大学とのパートナーシップミーティング in 平塚・大磯・二宮～地域が育む未来の活力～」*契約主体：湘南 NPO サポートセンター	令和 7 年 1 月 23 日（木） 14:00~17:00	神奈川県・平塚市・大磯町・二宮町との連携によって協働で開催 （令和 5 年度に続いて 2 回目） 参加人数・33 人、オブザーバー・3 人事例発表者・7 人　　合計・40 人
平塚市社会福祉協議会 との連携	ボランティア情報、活動団体の情報提供、防災連携(*1)、重層的支援体制の課題(*2)、等適宜情報交換を行った。 (*1)防災座談会 (*2)支援者間交流会	
包括支援センターゆりのき との連携	地域福祉に関する情報の共有、相談内容（個人情報は省く）の共有など、適宜情報交換を行った	
崇善公民館、崇善地区自治会連合会との連携	崇善公民館との連携による会議室の相互利用、事業の共同開催、協力。崇自連との情報交換、地域課題の共有	

	崇善地区小地域ケア会議への参加
神奈川県内の支援センターとの連携	神奈川県主催の CEO ミーティングの他、各支援センター間で必要に応じて情報交換を実施した ・令和 6 年度神奈川県 CEO ミーティング 9 月 26 日（木）14：00～17：00

3　事業総括【自由記述】

（1）センター登録団体の概況

令和 7 年度 3 月末時点での登録数は市民活動 326 団体、一般 122 団体、合計 448 団体となっている。市民活動団体の活動分野別での比率は、保険、医療及び福祉の増進関連が 90(27.6%)、次いで学術、文化、芸術又はスポーツの振興関連が 58 体(17.8%)、こどもの健全育成は 48 団体（14.7%）の順である。

（2）委託契約書による事業の進捗状況

契約書の内容に従い、市民向け講座など各事業、定期刊行物発行、協働推進課との定期的な情報共有等々、上期は遅滞なく履行できた。

（3）人材育成（スタッフ研修）

・初任者研修：かながわ県民活動サポートセンター
10 月 30 日(水)13:30~16:00（2 名参加）

・センター主催講座及び事業への参加
ファンドレイジング講座、こどもわくわくフェスタ、団体応援講座（2 種）、支援者間交流会、防災座談会等、団体と共に参加し学ぶことで団体の現状把握、相談力向上に努めた。

・県の 3 つの事業（基金 21 団体成長支援事業アドバイザー会議に出席、かながわ NPO 伴走応援プログラムへの参画、神奈川県 NPO・企業・大学パートナーシップミーティング参画）によって、中間支援組織の職員としての学びを深めることができた。（契約主体：湘南 NPO サポートセンター）

・毎月のスタッフミーティングで、相談対応などの振り返りを実施。

・12 月 27 日(金)センタースタッフ研修を実施(スタッフ 10 名出席)。
中間支援組織について、センターの運営についての講義とディスカッションを行った。

（4）NPO/市民活動団体支援の現状から

・団体の現状と課題

12 月に実施した「市民活動団体の現状に関するアンケート調査」結果では、今後の活動に必要と思われるものとしては情報発信力が最多となっており、次が人材育成力であった。また、必要と

思われる支援策については、資金調達・地域との連携・行政との協働が挙げられた。センターに特に力を入れてほしいことについては、団体からの情報発信の援助、団体への情報提供であった。NPO・市民活動団体にとって情報発信が上手くできないことが課題となっており、知ってもらうためには、ビジョン・ミッションの再確認と必要としている方にとってわかりやすい情報の整理及び発信の仕方が急務であると言える。

・団体の連携・ネットワークの仕組み

生活困窮世帯の増加、不登校・ひきこもり者の増加、孤立化する高齢者や支援の必要な子どもを支援する NPO・市民活動団体及び社会福祉協議会、就労支援機関等の活動の現状や課題を共有するため支援者間交流会を 2 回開催した。充実した意見交換と関係する各機関が連携することの重要性を改めて認識する機会となった。

第 4 回目となる防災座談会は、能登半島地震の支援に出向いた市社協職員からの事例紹介と、昨夏の大雨による市内の被害状況を共有した。

昨年末に実施した団体アンケート結果で 68 団体から防災に関する連携・協力の申し出があった。多様な地域課題解決に向けた多機関連携は今後益々重要と考える。

・若い世代のボランタリー活動への参加について

何かをやってみたいという若い世代の声も増えており、学生が参加したくなる取組や仕組みづくりが求められている。地域学校協働活動やコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）、中学校・高校等での探究活動など地域の動きも見ながら、一歩を踏み出すためのきっかけとなる場づくりが今後の課題と考える。インターンシップ生の受け入れ体制を整えていきたい。

・人生 100 年時代におけるシニア世代の市民活動への参加について

シニア世代のボランティア活動や地域活動への参加が、進みにくい原因として

・70 歳を過ぎても働きたい
・既存の団体の参加のハードルが高い
・自ら団体を立ち上げるのは難しい
・趣味の延長線上にあるサークル活動が良い、などの声が聞かれる。

しかしながら、社会とのつながりを持ちながら活動しているシニア世代は、元気な方が多く健康寿命が長いと言われていることから、シニア世代にむけた参加のきっかけづくりも重要であると考える。

エ　農福連携マッチング等支援事業（神奈川県）

農家を講師として、障がい者が農作業（種まきや収穫、除草、片付けなど）を体験することができる就農体験会（お試しノウフク：２年目）を開催した。（農福連携５年目）

（開催地域）ＪＡ湘南が管轄する平塚市・伊勢原市・大磯町で開催

■事業の成果：就農体験会（お試しノウフク）の開催：９件）

	開催日	農家	福祉事業所
1	6月5日	笹尾農家	大磯かたつむりの家
2	6月20日	関谷農家	大磯かたつむりの家
3	9月26日	関谷農家	キルクももはま
4	10月15日	海老澤農家	キルクももはま
5	1月18日	秋山雄一農家	スタジオクーカ
6	1月18日	秋山修農家	スタジオクーカ
7	1月18日	岩田農家	スタジオクーカ
8	1月18日	笹尾農家	スタジオクーカ
9	1月27日	秋山雄一農家	キルクももはま

■事業の成果：マッチング成立（5件）

	開催日	農家	福祉事業所
1	４月１日	桐原農家	大磯かたつむりの家
2	４月１日	大森農家	グランズ平塚
3	11月27日	関谷農家	キルクももはま
4	11月29日	海老澤農家	キルクももはま
5	2月3日	秋山雄一農家	キルクももはま

■実施の様子

6/20　事業所「大磯かたつむりの家」
農家「関谷農園」平塚市

10/15　事業所「キルくももはま」
農家「海老澤農園」平塚市

1/18　事業所「スタジオクーカ」
農家「笹尾農園」伊勢原市

■マッチング件数及び新規就労者数

マッチング成立の合計件数5件　　新規就労者延べ人数　828名

■事業の成果：その他

(1) 4/１８　平塚中等教育学校自己探求プログラム「農福連携」に協力(3/6発表)

(2) 5/２８　ウェルビー平塚北口センター事業所で農福連携についてスピーチ

(3) 5/２８　平塚ライオンズクラブにて農福連携についてスピーチ

(4) 6/２７　農福連携農家・福祉事業所との合同懇親会を開催

(5)10/１７　韓国・社団法人全国農業技術者協会が農福連携の現場『キルクももはま』を視察

(6)11/２４　市民活動センターまつりにて農福マルシェを実施

(7)12/１８　「内閣府地方創生推進事務局」及び「あずさ監査法人」職員が農福連携の現場『キルクももはま』を視察

(8)12/２０　藤沢市障がい者福祉対策部会が農福連携の現場『キルクももはま』を視察

(9) 1/１８　福祉事業所「スタジオ・クーカ」にて農福マルシェを実施

(10) 3/１８　農福連携推進会議を開催

■アンケート結果

農福連携を実施した農家・福祉事業所に対して、①実施して良かったこと　②課題　③利用者さんの声を回答いただきました。

■結果①について

（農家）抜粋

・収穫、袋詰めがとても早く終わるようになった。

・すべての作業が時短できて助かっている。もういなくてはならない人材になっている。

・売り上げが伸びた。

・近所の農家が興味を示し始めている。

（福祉事業所）

・利用者さんが前向きに取り組んでいるので安心した。農業が就労に向けての一つのステップになってくれるとありがたい。

・利用者さんが、生きがいをもって働いてくれているのをみると、やってよかったと思えた。

・地域に暮らし、地域のことをよく知っていられるのが農家さん。農家とつながることは地域とつながることになり、とても大切なことで必要なことです。

■結果②について

（農家）抜粋

・工賃について、仕事ができる人は賃金を上げた方がいいのか思案中。

・我が家は土日中心の農業なので、福祉事業所の利用が限定的となっている。

・作業の洗い出し、細分化を検討していきたい。

・農作業のどの部分を福祉と連携できるかを試行しながら考えたい。 他

（福祉事業所）抜粋

・専用作業場所の確保。例）野菜に適した場所（温度、冷暖房）、作業に適した場所（トイレの確保）

・農家さん同士は日頃より連携がとれているようにみえるが、福祉事業所どうしは横のつながりが弱いと思う。

・利用者さんにより、農作業の希望の偏りが大きい。

■結果③について

・袋詰め作業で、野菜に触れられるのが楽しい。

・青空の下で作業できることが楽しい。

・収穫物を自宅に持ち帰ってお母さんとレシピを考えたりするのが楽しい。

・農家さんの大変さが分かったから、値段が高くなっても文句は言わない。

■振り返り

・関係者のネットワークが深まり、懇親会や推進会議を開催することができた。そこの場では、農福連携 をして楽しく作業できていることや作業の効率化についても話題となり、新たな連携も生まれそうである。農福連携の輪が広がって来ていることを実感している。

・農家、福祉事業所共に核となる人材ができ多方面で活躍されているので、農福連携の広まりに貢献できている。また、農家からの依頼作業や福祉事業所の環境改善などの課題を解消する努力をされていることが大きく役立っている。

■今後の課題

・福祉事業所の立地が①住宅地にある②防犯上も有利などを鑑みると直売所としても活用したい。

・福祉事業所によっては、広い作業場に冷暖房の施設があることがわかった。袋詰めなどの作業にとても適しているので情報を集めていく。

・農業者と福祉事業者とのネットワークを作ったり（ＬＩＮＥグループ等）、定期的に会合をもったりして、農家の希望と福祉事業所利用者さんの希望とがうまく擦り合わせられる環境や知恵を出し合える環境を構築していく。（例）年間作付け野菜の情報交換、福祉事業所の農福運営の情報交換等。

特に、二宮町や大磯町の福祉事業所の実態把握を進め農福連携を推進していく。

・農福連携ののぼり旗を各農家・施設に設置していく。

・夏の異常高温は、利用者さんの作業や事業所の環境に大きな影響が大きかったと思われるので、夏場の外作業は十分な配慮（対策）をする必要がある。

・施設外就労は、福祉事業所のスタッフ不足も考慮して、十分な計画を立てた上で農福連携をしていく必要がある

オ　かながわ水産業福祉連携推進事業（神奈川県）

障がい者、高齢者、生活困窮者といった幅広い福祉の支援を要する者を水産業(水産加工、漁業)の担い手の一端に位置付け、福祉部門と連携しながら水産業の担い手を増やし、就労・雇用の確保につなげるとともに、障がい者、高齢者、生活困窮者が生涯を通じて地域で活躍できる仕組みづくり（2 年目の事業）

（１）事業の具体的な内容

1. 研修講座（理解増進、水産業者向け、コーディネーター育成、福祉事業所向け水産業技術支援、現場体験）
2. 水産業者と福祉事業者等とのマッチングの場づくり

3. 行政、水産業福祉当事者団体、民間等が一堂に会する水産業福祉連携研究会
4. 水産業福祉当事者の要望に応じた事業アドバイザーの派遣
5. かながわ水福連携マニュアルガイドブック制作

（2）事業内容

ア.研修講座（理解増進・水産業者向け・コーディネーター育成・福祉事務所スタッフ向け水産業技術支援・現場体験）

水産業関連：平塚市漁業協同組合、株式会社大半商店、株式会社 COTE、貝登志株式会社、湘南魚類株式会社、山大商事株式会社

福祉関連　：クオケア、グランズ平塚、WELBE 平塚北口センター、神奈川県障害者自立生活支援センター、平塚保健福祉事務所、G サポート、小田原支援センター、ほうあんのぞみ、かのん

【水産業福祉連携理解増進研修講座（一般）・6 回】

	地域	施設	実施日	対象	人数
1	平塚	ウェルビー平塚北口センター	5 月 28 日	ウェルビー平塚北口センター	11
2	県	JF マリンバンク意見交換会・県内事例紹介	7 月 11 日	関係者	120
3	藤沢/平塚	一般研修講座(横須賀市立総合福祉会館)	1 月 19 日	一般	2
4	藤沢/平塚	一般研修講座(横浜市金沢地区センター)	1 月 25 日	一般	6
5	藤沢/平塚	一般研修講座(三崎フィッシャリーナ・ウォーフ「うらり」)	1 月 26 日	一般	1
6	藤沢/平塚	一般研修講座(鎌倉障がい学習センター「きらら鎌倉」)	2 月 16 日	一般	2
計					142

【水産業福祉連携理解増進研修講座（水産業者向け・3 回】

	地域	施設	実施日	対象	人数
1	藤沢/平塚	神奈川県しらす船曳網　漁業連絡協議会	6 月 27 日	組合員	6
2	藤沢/平塚	湘南漁業協同組合	12 月 16 日	水産庁/三重県	20
3	平塚	岡山県農福連携サポートセンター	3月17日～18 日	職員	9
				計	35

【コーディネーター育成・2 回】

	地域	施設	実施日	対象	人数
1	平塚	藤沢市民生委員児童委員：障がい者福祉対策部会	12 月 20 日	民生委員	16

2	小田原	岡山県農福連携サポートセンター	2 月 26 日	コーディネーター	4
				計	20

【福祉事業所等への技術支援研修・7 回】

	地域	施設	実施日	対象	人数
1	小田原	貝登志/小田原支援センター	4 月 23 日	支援員	3
2	小田原	鮑屋/ゆう	5 月 8 日	支援員	3
3	小田原	大半商店/小田原支援センター	9 月 18 日	支援員	1
4	小田原	大半商店/かのん	9 月 27 日	支援員	4
5	小田原	COTE/平塚保健福祉事務所（個人）	10 月 17 日	支援員	1
6	平塚	山大商事/グランズ平塚	2 月 18 日	支援員	2
7	平塚	山大商事/クオケア	2 月 18 日	支援員	1
				計	15

【現場体験　6 回】

	地域	施設	実施日	対象	人数
1	小田原	貝登志/小田原支援センター	4 月 23 日	利用者	5
2	小田原	鮑屋/ゆう	5 月 14 日	利用者	11
3	小田原	大半商店/小田原支援センター	9 月 18 日	利用者	4
4	小田原	大半商店/かのん	9 月 27 日	利用者	8
5	小田原	COTE/平塚保健福祉事務所	10 月 17 日	利用者	1
6	平塚	山大商事/クオケア・グランズ平塚	2 月 18 日	利用者	7
				計	36

イ.水産業者と福祉事業者等とのマッチングの場づくり・1 回

	地域	施設	実施日	対象	人数
1	平塚	山大商事/クオケア・グランズ平塚	2 月 13 日	支援員	3
				計	3

ウ.行政、水産業福祉当事者団体、民間等が一堂に会する水産業福祉連携推進研究会・4 回

	地域	基調講演	実施日	事例	人数
1	Zoom	水産庁	7 月 5 日	鮑屋（小田原）	56
2	Zoom	和田教授	10 月 7 日	貝登志（小田原）	57
3	Zoom	水産庁/三重県取組み事例	12 月 12 日	大半商店（小田原）	51
4	Zoom	神奈川県/NPO	3 月 11 日	湘南魚類（小田原）	42
				計	206

エ.水産業福祉当事者の要望に応じた事業アドバイザーの派遣・１回

	地域	アドバイザー	実施日	対象	
1	小田原	李銀姫　東海大学准教授	２月 26 日	大半商店	

オ.マッチング成立実績・継続３件/新規５件

	区分	市町村	水産業者/福祉事業所等	雇用人数	委託・就労雇用内容	区分	人数	日数	実人数
1	継続（注 1）	平塚	平塚茅ヶ崎魚市場/グランズ平塚		番重洗浄/冷凍魚袋詰め等	施設外	80	24	3
2	継続（注 2）	小田原	大半商店/ほうあんのぞみ		干物の袋詰め～梱包	施設内	5	1	2
3	継続（注 3）	小田原	鮑屋/ゆう		あんこうカレーシール貼り/袋詰め	施設内	8	8	2
4	新規	小田原	貝登志/小田原支援センター		吸水シートのカット	施設内	12	3	4
5	新規	小田原	鮑屋/ゆう		イカ墨卵の梱包	施設内	101	58	34
6	新規	小田原	大半商店/小田原支援センター		干物の袋詰め～梱包	施設外	130	28	5
7	新規(注 1)	小田原	COTE/個人	1	番重洗浄等	施設外	1	3	1
8	新規	小田原	湘南魚類㈱/小田原支援センター		アジフライ等のシール貼り	施設内	15	6	3
	計						352	131	54

継続（注 1）：平塚茅ヶ崎魚市場/グランズ平塚（2024 年 6 月 30 日契約満了）
継続（注 2）：大半商店/ほうあんのぞみ（工賃の支払いのみ）
継続（注 3）：鮑屋/ゆう（あんこうカレー・・期間限定商品　１回/年）
新規（注 1）：生活困窮者との契約が 2024 年 11 月に成立したが、同月末に解除

（1）県内マッチング事例（新規）

(1)-1 小田原市　㈱鮑屋×作業所ゆう
「いかすみ卵の紙パック成形～梱包作業」

(1)-2 小田原市　㈱貝登志×小田原支援センター「吸水シートのカット作業」

(1)-3 小田原市　㈱大半商店×小田原支援センター（施設外）「干物の袋詰め～箱詰め」

(1)-4 小田原市　湘南魚類㈱/小田原支援センター
「キッチンカー販売向けアジフライ袋のシール貼り」

（1）-5　小田原市
㈱COTE/生活困窮者（施設外）

(2)コーディネーター研修

・藤沢市民生委員児童委員
障がい福祉部会研修

・岡山県農福連携サポートセンター
「大半商店㈱小田原視察」

(3)県外事例の視察・・・岡山県における水福連携の取組み（牡蠣養殖）を視察した。

① きらめきプラザ・・・岡山県農福連携サポートセンター（岡山県北区）
② 牡蠣のロープ撚り入れ作業（A 型事業所ドリームプラネット/岡山県東区）
③ 牡蠣コレクターの組立（いんべ通園センター/備前市）
④ 2 社の牡蠣漁業者へ訪問（内田氏、林氏/瀬戸市牛窓）

■その他、2 年間の振り返りと今後に向けた課題

・県と藤沢/湘南の両 NPO の役割分担が明確で、定例会などを通じて密に連携し、課題の抽出から解決まで迅速かつ適切に実行できている。

・技術研修(支援員向け)と現場体験(利用者向け)を設けたことが、支援員が利用者の作業に対する特性を見極めるのに効果的であった。

※平塚市漁協が候補検討など積極的に協力いただき、連携がスムーズに進んだ。

・作業について過度なノルマを課すことなく、楽しく仕事ができることに力点を置いて連携を進めた。

※小田原市水産部門と福祉部門が積極的に協力していただけたことで、水産業者、福祉事業所の紹介や公募など、マッチングが円滑に進んだ。

・受入れ側が企業のためビジネス面からの対話ができ、お互いの責任分担が明確にできた。

※水産会社と従業員が理解をもって利用者を受け入れていただいた。

・年間を通じてできる仕事が存在した。

・農福連携を経験している事業所も多く、他分野での活動展開に積極的だった。

・会社と事業所の距離が近く(車で 10～15 分程度)送迎や意思疎通が容易にできた。

※平塚茅ケ崎魚市場が、水福連携の理解に加え工賃面など事業所への配慮も頂けた。

・施設内で就労できる仕事があった。

・事業者が周辺作業を行うことで、ベテラン従業員が本来業務(魚の捌き等)に集中でき、生産性の向上につながった。

※小田原市周辺に水産加工会社が多数あり、様々な仕事が存在した。

・障がい者などの受入れ経験がある会社も多く、連携への粘り強い意思をもって臨んでいただけた。

■課題

※生活困窮者等への拡大

・対象候補をいかにして見い出すか。

・紹介～現場体験～雇用成立～就労継続の各フェーズでの支援とフォローの体制。

(6)広報

マニュアルガイドブック発行

湘南 NPO サポートセンター　水福専用 Web

カ　共創地域運営組織支援事業（神奈川県湘南地域県政総合センター「地域づくり活動促進事業」）

１．事業目的

本格高齢社会、コロナ禍後の共創型地域づくりの手引きとなるよう作成した「ひらつか地域活動の仕組みづくり note」（令和 5 年度）を活用し、産・官・学・民が一丸となって、多様な世代が参画する新たな地域イベントの企画ならびに持続的な地域運営組織づくりの立上げ支援、人材育成・企画運営の支援に寄与することを目的とする

２．事業の具体的な内容

（１）地域自治会等への地域づくり支援：撫子原自治会勉強会

少子高齢化など自治会活動の課題がある現状。令和 3 年に平塚市との協働事業で、市内の自治会役員対象にアンケートを実施した。その結果を基に解説し今後の地域づくりに生かしていただく。

日時：12 月 6 日（金）19：30～20：30　　場所：なでしこ公民館 2F ホール

参加者：撫子原連合自治会 15 名

講師：宮崎道名（湘南 NPO サポートセンター理事）

（２）　次世代まちづくりセミナーの開催

平塚市と協働で作成した「仕組みづくり note(ノート)」にて提案した、多世代がまちづくり・地域活動に参画する体制・アイデア企画・発信づくりについて中高生世代を対象に具体的な活動試行していくためのセミナーを実施した。

日時：12 月 7 日（土）13：30～16：00　　場所：ひらつか市民活動センター

講師：森田鉄平氏（トンガリーズ代表）、里倉徹哉氏（金旭中学校）

参加者：16 名

参加者の声（抜粋）

・チャレンジすることが大切ということを改めて考えられた。これからも挑戦し続けられる人になりたいと再確認できた。（大学生）

・若い世代がまちづくりに興味を持っていることを知ることができました。自治会に若い人を参加させるためではなく、若い人の応援をすることが必要と知ることができたのは大きな収穫でした（社会人 40 代）

（３）　HIRATSUKA まち・ひと・魅力づくりフォーラムの開催

「仕組みづくり note(ノート)」で提案した考え方をもとに、市制 100 年を見据えた“ひらつかの地域・まちづくりを市民・企業とともに探り、これからのひらつかの魅力づくりを語り合うフォーラムを開催した。

日時：令和 7 年 1 月 29 日（水）18：00～20：00　　場所：ひらつか市民活動センター

講師：楓 千里氏（國學院大學観光まちづくり学部教授／地域マネジメント研究センター長）

パネリスト：梶田 佳孝氏（東海大学建築都市学部教授）

長尾 亨氏（横浜ゴム（株）平塚製造所長補佐）

須藤　元氏（市民有志）

参加者：29 名

参加者の声

・平塚のことを思って動いている仲間がたくさんいるんだと！！気づくことができた。平塚を動かす大きな力になると感じた。

・工場（企業）見学が観光になるというのは、なるほどと思った。「楽しく関われる」仕組みというのもキーワードになると感じた。

・学生の意識を高めるまちづくり、学生向けにまちづくりのことをもっと広めて欲しい。次回は、学生や七夕まつり等のイベントに関わっているメンバーを集めて、どう特色づけるかのようなフォーラムを期待しています。

（２）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業

ア　メディア事業

・市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの作成、WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作を行った。この活動を通して市民、市民活動団体、地域活動団体の組織基盤強化と団体の自立に向けての後押しをすることができた。

・既に取引があるクライアントから例年と同様の依頼があったのに加え、増刷や新規の作成依頼があった。

・動画に関する相談や依頼は増加した。

・クライアント様と適宜内容に応じて打ち合わせを行った。

【実績】平塚市自治会連絡協議会様、平塚市様、横内中学校 PTA 様、八幡商店会様、市議会議員様 NPO 法人暮らし・つながる森里川海様、女性防災クラブ平塚パワーズ様、NPO 法人平塚のら猫を減らす会様、フェニックスサービス株式会社様記念動画作成、（一社）日本ウエルネスライフ協会様動画作成

イ　スマホ・タブレットサロン

・毎週木曜 10 時～12 時、市民活動センターを利用して IT 支援（スマホ・タブレット・PC の使い方についてマンツーマンまたはオンラインによる支援を行った。

※サロン開催回数 49 回、参加延べ人数 79 人、講師として 3 人が対応した。

・IT スキルの高いシニア会員が中心となって 6 年目の継続開催。サロン形式でほぼ個別対応。受講生はリピーターが多く「自分のペースで、知りたいことをピンポイントで教えてもらえる。」などの評判あり。スマホの相談もあるが、PC に関する相談が中心となっている。

ウ　ひらつか地域魅力ネットの運営

・平塚の魅力発信を行うとともに市民活動・地域活動の情報発信の場、交流の場として活用していただくことを目的として実施した。

・今年度は 3 名の東海大学インターンシップ生が 3 本、東海大学梶田研究室の学生 8 名が 4 本の記事を作成、掲載することができた。学生の豊な感性を生かした取材活動は今後の市民活動の活性化に大いに寄与すると考える。

[法人運営に関する事項]

会員

●会員数

令和６年３月末日時点　　正会員（個人）　39 名　正会員（団体）　1 団体

賛助会員 ９名　　アドバイザー ２名

●第 12 回定期総会（社員総会）

日時：令和６年５月 18 日（日）14：00～16：00

会場：ひらつか市民活動センター

正会員総数　　41 名

出席者数　　31 名（うち出席者 19 名、委任状 12 名）

（1）会議

●理事会		
第１回　４月 13 日	第２回　５月 18 日①	第３回　５月 18 日②
第４回　７月３１日	第５回　１０月２８日	第６回　１月 10 日
第７回　３月 21 日		
議題：総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、各事業部の進行状況管理 ビジョン・ミッション再検討、次年度組織体制、市民活動センター人事、等		

●定例会		
第１回　４月 22 日	第２回　６月 25 日	第３回　７月 23 日
第４回　10 月 17 日	第５回　12 月 21 日忘年会	第６回　３月２８日
議題：まちづくり事業部、メディア事業部、市民活動センター事業部から進捗状況の報告と現状課題について情報交換・意見交換を行った。 ●オンライン開催：定例会はすべてオンラインとし、毎月第２火曜 18:00～19:30 の定例開催を計画したが、事務局体制が整わず毎月開催することが出来なかった。定例会は事業の進捗共有と会員相互の交流が目的だが参加者は減少傾向にある。各プロジェクトのミーティングは適宜行われているが、横断的な情報交換の場が作れていない。ここはテコ入れが必要。 ●MAIL NEWS 発行：会員間の情報共有を推進すべく毎月１日に会員向けの MAIL NEWS を発行した。活動内容を定期的に発信することで会員への理解・協力を呼び掛けることができた。		

（2）講師依頼等　令和６年度

・平塚中等教育学校キャリア教育研修：中学３年生対象（4/26）講師

・令和６年度大井町地域学校協働活動研修会（8/24）講師

・平塚市若手職員研修会（10/22）講師

・文教大学国際学部修士生対象：中間支援組織の役割（11/24）講師

・平塚市生活支援コーディネーター研修（12/18，12/19）講師

・平塚市まちづくり事例表彰団体交流会（2/4）　講師
・横浜市各区市民活動支援センターネットワーク会議（2/14）講師
・綾瀬市市民協働事業研修会（職員研修）（2/18）講師
・平塚市協働研修会（職員研修）（3/13）講師
・平塚市長と語ろう！ほっとミーティング（10/2、11/7、11/20、3/12）司会
・厚木市「自治会活性化講座」（11/11、2/8、2/12）講師
・横浜市神奈川区「令和６年度第２回神奈川区地域施設間連携会議」（12/2）講師
・静岡県函南市「伊豆の国 ART VILLAGE」(3/15)「アートとまちづくり」講師

（３）各団体・行政・他機関等委員の受任

総務省地域力創造アドバイザー（1 名）
伊勢原市行財政改革推進委員会委員（1 名）　伊勢原市地方創生アドバイザー（1 名）
茅ケ崎市市民活動推進委員（1 名）、　綾瀬市市民協働アドバイザー（1 名）
かながわ協働推進協議会委員（1 名）、（公財）アイネット地域振興財団　選考委員会（1 名）
かながわコミュニティカレッジ運営委員（１名）
神奈川県アドバイザー相談業務委託団体等検討会委員（1 名）
一般財団法人　地域活性化センター　地方創生実践塾 in 岩手県紫波町　特別講師（1 名）
紫波町地域コミュニティ支援主任アドバイザー（1 名）
大和市街づくり推進会議委員（1 名）
県立平塚江南高校学校運営協議会委員（1 名）　平塚市立横内中学校学校運営協議会委員（1 名）
平塚市真土地区青少年指導員(1 名)　平塚市大原地区青少年指導員（1 名）
中央公民館運営委員(1 名)　中原地区民生委員児童委員（1 名）

（４）組織（役員）体制　令和６年度末時点

理事長	坂田　美保子	副理事長	鈴木　奏到
理事	氏家　真美	理事	梶田　佳孝
理事	長谷川　正幸	理事	宮崎　道名
監事（会計）	徳永　宣明氏	監事（事業）	斉藤　進氏
アドバイザー	二宮　雄岳氏	事業アドバイザー	三浦　由理氏

以上